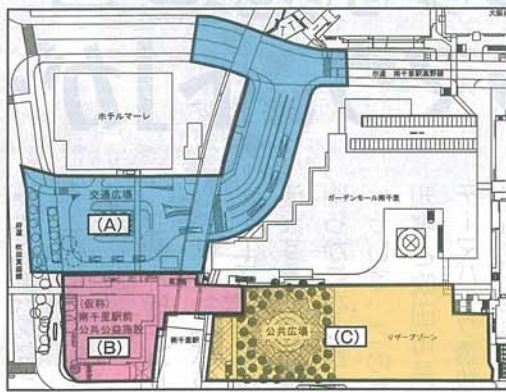


高齢化が進む千里ニュータウン

「この地域はいまやオールドタウンだ」と言われるほど高齢化が進む千里ニュータウン。ニュータウンの玄関口として賑わった阪急南千里駅も、最近では人通りがめっきりと減少、通行人に代わって、目立つのは公社・公団住宅の建て替えに伴うマンション工事だ。

そんな南千里駅前がリニューアルする。街がどんな風になるのだろうか？再開発に伴う問題は？住民たちはどう感じているのだろうか？

まずは再開発計画の概要を知らねばならない。吹田市役所「千里再生室」で計画案を尋ねた。



千里南地区センター再整備事業区域図

AQ 今回の駅前再開発で、街はどのように変わりますか？
南千里駅前再開発事業は、大きく3つのパートに分かれ



千里南地区センター再整備事業 (交通広場建設工事) イメージ図 (Aゾーン)



取り壊される運命の南千里駅前ビル (Cゾーン)

「千里再生室」で 南千里再開発 計画案をたずねる

まず、1つ目のA部分、交通広場の再整備です。現在ホテルマールとタクシー乗り場(Bの部分)の間は道路で、府道吹田箕面線とつながっていますが、交通安全上の問題もあるため、ここを遮断してロータリーにします。片側2車線でタクシーの待機所とバス停を作り、ホテルマールと、新しくできる(仮称)南千里駅前公共施設とを回廊で結びます。(イメージ図参照)

次にBの部分、つまり(仮称)南千里駅前公共施設ですが、これは地上8階地下2階のビルとして、主に行政施設が入る予定です。最後にCの部分。現在ここには銀行や郵便局、千里出張所などが入っていますが、全て移転して取り壊します。そして公共広場とリザーブゾーンになります。

AQ 再開発のスケジュールは？

A部分、交通広場の再整備から取りかかって、2011年4月には供用開始予定です。B部分(仮称)南千里駅前公共施設整備事業は、PFI事業者選定がすでに終了。来年度中に工事を開始し、2012年4月にオープンする予定です。C部分、公共広場の工事は、その後になりますね。



現在のタクシー乗り場付近が(仮称)南千里駅前公共施設に (Bゾーン)

AQ (仮称)南千里駅前公共施設は、PFI方式で建設・整備することですか？

P(プライベート)F(ファイナンス)I(インシアティブ)という、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。具体的には「奥村組グループ」が約86億円(税抜き)で落札し、今後20年間、つまり2044年まで、この施設の建設と維持管理を行うこととなります。

20年ローンの返済が義務

以上がこの再開発計画の概要だ。少し気になりなのが、PFI方式で行う(仮称)南千里駅前公共施設だ。落札額約86億円の65%ほどがビルの建設費、残りが維持管理費に充てられる。約30億円に及ぶ維持管理費を20年

で割ると、毎年1億数千円。確かに行政は縦割りなので、直営で維持管理すると、無駄な支出がかさむだろう。吹田市が直営でビルを建てると、その代金は一括で払わねばならず、そのため借金をすれば金利負担が生ずる。PFIなら20年の延べ払いなので、一括で払わなくても良いもの、やはり「20年ローン」の返済が義務付けられる。どちらが「賢い選択」なのか？

いずれにしても、行政と事業者、市民がじっくり話し合っ、南千里駅前を再生させてほしいものだ。

否応なく軍隊に徴兵されます。

1933年、診療所に復帰した加藤虎之助医師は、医療活動に没頭するなか虫垂炎(盲腸)を悪化させ29歳の若さで亡くなりました。

医師であり、幹部候補として徴兵されても反軍の考えをもち、わが身をかえりみぬ豪胆さで、無産者の治療に没頭したと伝えられています。

虎之助医師亡き後も、無産者診療所は遺志を継いだ人々で続けられますが、軍国体制と無産者運動への弾圧の中で1938年診療所は閉鎖に追い込まれます。

日中戦争から太平洋戦争の前夜にかけて吹田で灯された無産者の「反戦と医療の活動」は、いまの時代に引き継がれています。

加藤虎之助医師のテスマスクは無産者診療所の意思を引き継いだ相川病院に保管されています。また診療所跡地のサンクス東南角の朝日町交差点には「三島無産者診療所跡」の碑が建てられています。

勝手に吹田遺産 その11

加藤虎之助医師と三島無産者診療所

昨年小林多喜二の「蟹工船」がひとつのブームとなり、映画もつくられました。その多喜二が活動したのは昭和のはじめ、特高警察に逮捕、殺されたのは1933年(昭和8年)のことです。

当時は吹田でも、「蟹工船」に代表されるような労働者や農民の苦しい生活があった。三國紡績の女工争議、山田村小作人争議、神崎川にあった友禅工場争議(1930年)などが起っています。

その流れを今に伝える墓が吹田市内本町3丁目の市宮川面墓地にあります。「加藤虎之助先生の墓」がそれです。

貧しい暮らしを強いられた吹田の労働者、農民の中から「無産者に医療を」と運動がおこり、1931年8月、今のJR吹田駅のそばに「三島無産者診療所」が開設されました。

ここに医師として招かれたのが京都市帝大医学部を出たばかりの青年加藤虎之助です。彼は無産者診療所で労働者、農民のために献身的に医療活動を行いますが、

●参考文献 相川病院、歯科保険医新聞

画・文 高宮 信一

フォーカス

「地方分権」ブームである。かつての「郵政民営化」ブームのとき「地方分権」の大合唱である。大阪府の橋下知事に言わせれば、地方分権、とりわけ道州制に至れば万事良しとのこと。ご当地阪吹田市長も今日の社会問題の解決には分権型社会の構築しかないという憲法に明記されている地方自治は、先の侵略戦争が非民主的な中央集権国家のもとで遂行されたことへの大なる反省にもとづくものであることは、大抵の「憲法」の教科書に書いてある。いわく、地方分権は中央の統一権力の強大化をおさえ、地方自治は民主主義の小学校である。「地方のことは地方で決める」地方分権におおいに結構である。

しかし、なぜ今さら「地方分権」ブームなのか。理念なき「平成の大合併」は各地で深刻な地域社会の疲弊を招いている。「地方分権」とくに道州制がすべての処方箋で、これさえすれば何とかなるというのには明らかに言い過ぎである。何のための、誰のための「分権」なのか。

国際児童文学館など府民の財産は関係者との十分な話し合いもなく問答無用で廃止、私学助成を求める高校生には「国外退去」を薦め職員を「盗撮」して恥しない。少なくとも、橋下知事のいう「地方分権」が、「民主主義の小学校」住民自治の充実を目的とするものではないことははっきりしている。

むしろ、道州制の強力な推進者であり、「偽装請負」で名をはせた日本経団連会長と軽井沢で意気投合している姿に、彼が「地方分権」を絶叫する本筋の目的が見え隠れする。日本経団連会長は、道州制による府県の廃止等で浮いた財源を空港・港湾・高速などの大規模プロジェクトの建設費用や多国籍企業誘致にまかせと強力に主張している。

どんな病気にも効く薬なんて肩唾物である。どんな問題も解決するといふ「地方分権」道州制ブームには、ご用心、肩に唾をつけることをお勧めする。(こもはる)